



全国社会福祉協議会
年次報告書

全国社会福祉協議会は
ともに生きる豊かな福祉社会を
めざします。

ANNUAL REPORT

2013-2014

PROCESS & ACHIEVEMENT

Japan National Council of Social Welfare



実践事例

01

社会福祉法人一麦会・麦の郷（和歌山県和歌山市）

「ほっとけやん」* の精神が生み出した、 社会福祉法人による 中間的就労の取り組み

*「ほっとけやん」=和歌山弁で、「放っておくことができない」の意味。



法人本部

築100年の古民家を改装した、 オシャレなカフェで働く若者たち

和歌山県紀の川市、JR 粉河駅前にある古民家カフェ「創— HAJIME — Café 山崎邸」。築 100 年の一軒家を改築して甦った、オシャレな空間です。カフェを運営するのは、社会福祉法人一麦会・麦の郷（以下、麦の郷）。ホールや厨房スタッフとして働いているのは、ひきこもりやニートとなつて長期間未就職・失業状態にあった若者たちです。麦の郷では一般企業で働くことが難しい彼らのために、中間的就労の支援活動を積極的に進めています。柏木克之執行理事は、この取り組みに力を入れる理由を次のように説明します。

「ますます厳しくなっていく社会状況の中、さまざまな理由により、一般企業で働くことが難しくなっている若者たちは少なくありません。そんな今だからこそ、『中間的就労』の場が必要です。私たちは地域に根ざす社会福祉法人として、困っている人たちのために手助けをしなくてはいけないと考えました。このカフェは、法人独自に立ち上げた「社会的企業」です。この店での経験をもとに、一人でも多くの若者たちが社会に巣立ってくれればうれしいですね。」

法人独自の中間的就労マニュアルで、 高度な基礎的計数管理まで支援

麦の郷では、2009年にひきこもり者社会参加支援センターとして「ハートフルハウス 創～ HAJIME ～」を立ち上げ、青年たちのための居場所づくりをすすめきました。彼らはここで同じような悩みがある仲間たちと接しあいながら、少しずつ自分の将来を考えるようになっていきます。社会で働いてみたいという意欲が湧いてくれば、支援スタッフたちは麦の郷が運営する多くの事業所の中から本人の適性に合わせた就労訓練の場を探していくのです。

「私たちの法人内では、印刷、クリーニング、パン製造、納豆・豆腐製造、米飯・総菜製造、飲料・生菓子製造、粉末加工品製造、農産物直売所・飲食店運営、農業、カーメンテナンス…と、さまざまな事業所があります。中間的就労支援を行ううえで、職場選択のバリエーションが多いことは非常に重要ですね」と柏木さんは言います。

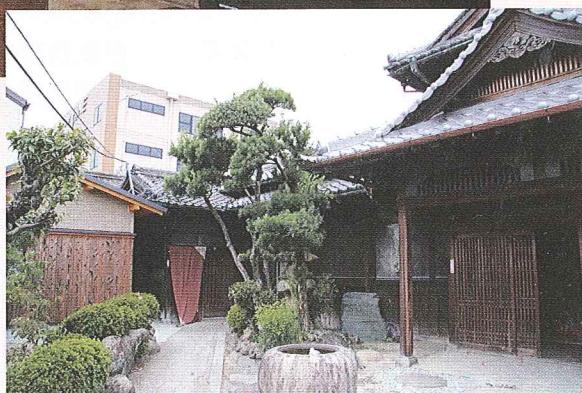
さらに麦の郷では、法人独自に中間的就労マニュアルを作成しています。挨拶や服装などの基本的な社会人マナーから、各事業所における作業の習得と向上方法、さらには基礎的計数管理まで徹底的に勉強するようになっています。せっかく働くなら、職場でまわりから期待される人材に育つほしいと麦の郷では考えています。それによって彼らの仕事が保障され、経済的自立につながるからです。「創— HAJIME — Café 山崎邸」のスタッフたちも、経営を安定させるために、



内装にもこだわり、訪れる人がホッとするひとときを過ごせる
「創 - HAJIME - Café 山崎邸」



営業時間中は大勢の人でにぎわう



カフェの外観

1日の売上がどれくらい必要かといった経営数値をしっかりと把握しながら働いています。

中間的就労支援の取り組みは、 今や社会福祉法人に課せられた使命

ひきこもりやニートは、現状の福祉支援制度の枠組みから漏れた存在です。障害者施設の利用者でない人たちを何人受け入れたとしても、事業所には福祉事業収入がまったく入ってきません。「日々売上げ目標などの数値ノルマに追われている一般企業で、この活動を行うことは難しいのではないか」と語る柏木さんは、だからこそ社会福祉法人が率先して、中間的就労支援に取り組むべきだと言います。

「もちろん私たちだけの力では、限界があります。麦の郷ではこれまで、一次産業としての農業、二次産業としての農産物加工業、三次産業としての小売り・飲食業を営んできました。次に注目するのは、これらを多角的に運営する六次

産業化です。地域内の複数団体・企業と相互協力関係を築きながら、生活困窮者の雇用の場をできる限り多く生み出したいですね」。

柏木さんは、こうした事業を独自に「地域資源循環型共生事業」と呼んでいます。

すべてのきっかけは、10数年前に受けた、「知り合いにひきこもりの人がいるが、何かサポートしてもらえないか」という地域住民からの相談でした。それに対し、「ほっとけやん」が合言葉の麦の郷では、福祉制度の枠を超えて、障害者・失業者・ひきこもり・ニートといった人たちへの取り組みを始めました。それぞれの状況に応じた職業に就き、経済的自立をめざすための支援です。それが、今、「中間的就労」の先行実践として、注目を浴びています。

地域に根ざした社会福祉法人の在り方を、麦の郷の実践が体現しています。